

はしがき

本報告書は、当研究所の令和2年度外務省外交・安全保障調査研究事業（総合事業）「国際秩序変容期の競争と連携——グローバルガバナンス再構築に向けた日本外交への提言」のサブ・プロジェクトの1つとして実施してきた研究プロジェクト「中東・アフリカ」研究会の成果をとりまとめたものです。

世界がコロナ禍に直面する中で、米中の対立と戦略的競争があらゆる分野で一層激化する中、ルールに基づく国際秩序は一層厳しい試練に直面し、国連を中心としたマルチラテラリズムの枠組みは、米国のリーダーシップを失って深刻な機能不全に陥りました。こうした中、中東・アフリカ地域では、米国のプレゼンス低下、米・イラン間の対立の激化、イスラエル・アラブ諸国の関係正常化、地域大国間の主導権争いを反映した代理戦争の継続、ロシアや中国の存在感の拡大等、重層的なパワーバランスの再編が続いています。この地域の不安定化は国際社会全体にとってのグローバルリスクですが、石油の90%を中東からの輸入に依存している日本にとってはさらに甚大な意味があります。

本研究会では、日本の経済利益に直結すると同時に国際公共財でもあるエネルギー供給ルートの安全と、地球規模課題である対テロや紛争防止の観点から、中東・アフリカ地域に焦点を当てて研究を実施して参りました。特に、ペルシア湾、紅海、地中海の周辺では、輸送ルートとエネルギー・食料資源の確保を目指し、中東域内外の国家間の競合が激化しており、この動向を、地政学、地域研究、海洋安全保障、エネルギー安全保障、コネクティビティやインフラ整備を通じた平和構築などの側面から多面的に理解することに努めました。

なお、本報告書に表明されている見解は全て個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。本報告が、混迷を深める現代の中東情勢を様々な観点から理解する上での一助となり、わが国の外交実践に寄与することを心より期待します。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

令和3年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐々江 賢一郎

研究体制

主査：	立山 良司	防衛大学校名誉教授
委員：	遠藤 貢	東京大学大学院総合文化研究科教授
	小野沢 透	京都大学大学院文学研究科教授
	柿崎 正樹	テンプル大学ジャパンキャンパス上級准教授
	小林 周	日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員
	貫井 万里	文京学院大学人間学部准教授
	松尾 昌樹	宇都宮大学国際学部准教授
	吉岡 明子	日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究主幹
		(敬称略、五十音順)

委員兼幹事：	市川とみ子	日本国際問題研究所所長
	永瀬 賢介	日本国際問題研究所研究調整部長
	井堂 有子	日本国際問題研究所研究員
	赤川 尚平	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	石塚 陽子	日本国際問題研究所研究助手

尚、本研究会に講師として以下の方々にもご参加頂き、執筆もお願い致しました。
ここに改めて感謝申し上げます。

齋藤 純	日本貿易振興機構アジア経済研究所副主任研究員
鈴木 恵美	福岡女子大学准教授
中西 俊裕	帝京大学経済学部教授